〔太平記十〕鎌倉合戰事

一方ニハ堀口三郎貞滿ヲ上將軍トシ、大島讃岐守守之ヲ裨將軍トシテ、其勢都合十萬餘騎、巨福呂坂ヘ指向ラル、其ノ一方ニハ、新田義貞、義助、諸將ノ命ヲ司テ、〇中略其勢五十萬七千餘騎、假粧坂ヨリゾ被寄ケル、〇中略

赤橋相模守自害事附本間自害事

懸リケル處ニ、〇中略本間山城左衞門、若黨中間百餘人、是ヲ最後ト出立テ、極樂寺坂ヘゾ向ヒケル、〇下略

○按ズルニ、巨福呂坂、假粧坂、極樂寺坂等ハ鎌倉七口ノ一ナリ、事ハ相模國篇名邑條ニ在レバ、宜シク參看スベシ、

〔躬恒集〕雜の歌

なげきのみおほえの山は近けれどいま一さかを越ぞかねつる

〔類聚名物考地理十七〕一坂　ひとさか

今世にいふ所にも、かくまで來て今一坂越ればなにぞなどいふ類ひ、一ツとも、一山ともいふなり、むかしもいひしことなり、

〔倭名類聚抄一山谷〕麓　說文云、麓山足也、音祿、和名不毛止

〔箋注倭名類聚抄一山石〕新撰字鏡同訓、坂上之踏本、見萬葉集難波經宿明日還來時歌、伊夜彦乃神乃布本、見越中國歌、按布毛度、卽踏基之義、〇中略原書林部云、麓守山林吏也、一曰、林屬於山爲麓、春秋傳曰、沙麓崩、與此不同、按山足之訓、見詩毛傳、尙書馬融鄭玄注、周禮禮記、尙書大傳注、左傳服虔注、穀梁傳注、易虔翻王肅注、國語注風俗通、釋名、史記索隱、漢書注、此恐誤引、釋名又云、麓陸也、言水流順陸燥也、